

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム春の山		
所在地	福岡県八女市上陽町北川内182-1		
自己評価作成日	平成28年12月22日	評価結果確定日	平成31年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成31年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホーム春の山では、毎日笑って過ごせるようにと考えて支援している。職員だけで支援するのではなく、家族、地域の方、主治医など、その方に関係する方と連携してみんなで支援している。生活の場であるため、毎日の生活が心地よく感じることができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

耳納山地に囲まれ目の前には春の山公園があり、豊かな自然の中にあるグループホーム「春の山」は、H24年に開設された2ユニット事業所である。ユニット内の交流もあり、同法人には市内に通所介護・居宅介護支援事業所・グループホームの計4施設を運営している。中庭を中心に回遊式の平屋造りで、太陽の光が差し込み明るい雰囲気である。脱衣所・居間には床暖房を設置、トイレも9ヶ所あり快適に過ごせる環境になっている。朝のミーティングでは、各職員が自分の目標を立て全職員で共有、有意義なミーティングをという思いで進行表を作成、入所者が笑って過ごせる毎日を作る為に努力を続けている。時間は自分達で作る物という考えのもと環境整備にも力を入れている。前居住地の秋祭りや自宅周囲へのドライブを行う等、今までの生活を大切に考えている。八女筑後地区介護保険事業連絡協議会の世話人を、今年度は担当しており、今後も地域に根差した発展に大いに期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はひとりひとり名札に理念が書かれた紙を入れている。毎朝ミーティング後、その日の出勤者で理念の唱和をして意識付けし、実践につなげている。 理念と一緒に、「環境整備を徹底する」も一緒に唱和し、日頃から環境整備を意識している。	開設時に管理者・計画作成担当者と共に作成した、施設独自の理念を、定例会(月1回)で必ず取り上げ話し合う機会を設けたり、毎朝のミーティング後唱和を行う。理念は玄関・ユニット・事務室に掲示している。日々のケアの中でも、原点として絶えず振り返りを継続して行っており、職員全員が暗記し、理念について意識・理解ができた上で、日々の実践に繋げる事ができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ない。 上陽校区福祉会のメンバーとなっているが集会に参加ができないことが多い。	年2回の避難訓練は近隣の方も参加しており、訓練をきっかけに、施設を見学する等良好な関係が築けている。春の山公園の祭りや広場で行われている土曜市には、入居者と出かけている。上陽校区福祉会には年1・2回参加しており、バザーの不用品の回収等を行う。小学校の昔遊びの授業に協力したり、PTA活動の食育の一環で施設で子供たちと団子汁を食べたりする事があったが、継続が難しく1回のみ関わりとなっている。	小学校の子供たちが放課後宿題を地域の方からボランティアで教えてもらっており、入居者の方も参加できたらいいなと思われていると聞き、今後何らかの形で、地域の方と継続した関わりができるような取り組みをされる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム内で起きている事、工夫していることなどを報告している。詳しく事例報告することもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。年度末にアンケートを実施し、集計した意見から次年度の内容を決定している。6回中2回は避難訓練を実施。身体拘束についても毎回ふられている。	2ヶ月に1回の開催、入居者・5組前後の家族・民生委員・行政区長・支所の市役所職員・包括・福祉センター・駐在所の警察官・近隣の方や避難訓練時には消防職員も参加している。避難訓練時の声のかけ方の指摘や、外部評価の報告も時間をかけ行う。家族の希望を基に内容を決定、毎回家族にも出欠を確認する。敬老会や避難訓練と同日に行い、参加しやすいよう工夫。議事録は玄関にファイルを置き、家族には請求書と共に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者も毎回参加していただいている。 事故報告書の提出や、介護保険申請に行った時、直接又は電話で相談することも多い。	事故報告や更新申請の為に市役所に出向いたり、運営推進会議の欠席時には議事録を郵送している。実地指導後より相談しやすくなり、看取りの加算や診療情報提供書の様式等について確認した事もある。市が事務局である地域密着型サービス連携会議に、H24年から加入し、年3・4回の研修会や年度末会議に管理者や他職員も参加、市との連携を深める事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず開放している。 勉強会のテーマに取り入れて、振り返る機会をもうけている。 運営推進会議の議題に身体拘束について、毎回とりあげることで日頃のケアを振り返るきっかけにもなっている。	国道道路に面し危険な為、玄関は自動扉を手動で操作、扉が開いたらチャイムが鳴る。非常口は4ヶ所あるがチャイムの音が全て異なりどの非常口かすぐに分かるようにしている。玄関が台所の窓から見え、外に出ようとする入居者には職員が付き添い一緒に外に出ている。年1・2回は内部研修で拘束についての事例発表をしたり、法人研修でも取り上げている。スピーチロックも職員同士で注意をする等必ず振り返り、無くすよう努力を続けている。	

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。 過去に、ほおっておくと虐待につながってしまうのではないかとという相談から、対応を急いだこともあった。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に資料を準備している。 外部研修に参加した職員が伝達講習を実施したこともある。 成年後見制度を利用されている方がおられるため、身近に感じている。	事務所・玄関に資料を準備している。入居前より成年後見制度を利用している方が1名いる。年1回権利擁護の内部研修を行っている。何かあれば法人の本部や上司に相談しており、以前包括に相談した事もある。職員は制度の違いを理解できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、詳細に説明をしている。入居されてからは、必要な部分はその都度、再度説明をしている。重要事項説明書や料金表などの小さな変更でも、説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見などは、日頃から些細な事でも記録の特記事項に記載し、全職員で情報共有できるようにしている。また、担当職員は、その日頃の聞き取りや、半年毎のアセスメント時に、入居者や家族から聞き取りをしている。	半年毎のアセスメント時に利用者・家族からの聞き取りを行っているが、日頃から面会時にも家族と話をする機会がある。4・5組の家族は頻回で、他の家族においても定期的な面会がある。1組家族が遠方であるが、電話で話をする機会がある。年1回運営推進会議の議題内容についてのアンケートを家族に実施しているが、満足度を確認する等、意見を聞き取る内容のアンケートは実施していない。	今後は本部や同法人のグループホーム等に相談しながら、家族の意見や満足度を確認するアンケートを実施する等、家族が意見や要望を伝えやすい機会を設けてみてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話をする機会をもつよう意識している。 最近では、本部から来て、職員の意見を聞く機会を増やしている。	月1回全体での定例会議には、休みやパートの職員も含め下出来る限り全員が参加している。会議前に職員が決定したテーマにて勉強会・発表会を行い、今月からユニット毎の会議を始めている。会議に出席できない時は、メモを渡し意見を伝えている。会議では意見を言いやすい雰囲気がある。各職員とも1年間の目標を自分で立て、1年後に管理者と達成状況を確認する機会がある。理事長が週1回野菜を持参し来訪、職員とも話をする機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者から日頃の職員の様子を聞き取っている。また、週に何度か来て、直接職員と接する時間をとるよう意識している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、□による排除は行っていない。	20代から60代までの職員がおり男女比は1:2である。休憩室があり、休憩も1時間とることができる。個人の資格取得も休みを取りやすく協力的である。研修等も管理者から参加を促してくれる事もあり、参加しやすい雰囲気がある。職員同士で仕事に対する注意をしたり、分からない時は気軽に尋ねる事ができる。図工や園芸等、職員が得意な事を利用者と一緒に行い、能力を発揮できる場がある。	

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を開催している。内容は、DVD視聴や、伝達講習を行っている。	管理者が手に入った資料を手元に残し参考にしたり、市からの人権に関する資料の配布があった時は、いつでも閲覧できるよう、職員の休憩室に置いている。	行政主催の地域の人権に関わる催しに今まで参加した事がないとの事で、今後は入居者と共にそういった関わりに参加してみてもどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりひとり担当業務をもっている。得意なことやできることで割り振りをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携会議や部会の勉強会に参加し、交流する機会を増やしている。今年度は、グループホーム部会の代表世話人をしているため、他の部会などとの関りも増えた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず面会をしている。特に、入居前の自宅での生活の様子を聞き取ることが大切になっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせの時点から、これまでの様子や悩みなどを拾い上げるように意識して対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの話をじっくり聞きながら、必要な支援を、担当職員が中心となり検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできることはしていただいている。又、調理や、編み物、漬物作りなど職員が入居者に教わっていることも多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を一番楽しみにしておられるため、ホームに来ていただく機会を増やしている。面会に来られた時には、日頃の様子を報告し、家族からの意見もいただいている。面会時、一緒に歩行練習をされたり、診察に同行されることも多い。		

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	八女市は広いので、入居者それぞれのなじみのある場所への祭りへ出かけている。また、日頃からドライブに行く機会が多く、自宅周辺や馴染みの場所などに出かけている。	入居時に本人や家族から聞き取りを行う。隣に医院があり受診した友人が寄っていく事も多い。家族に相談し、年1・2回自宅に友人を呼んでもらい自宅で会う機会を作っている方もいる。個別で自宅周囲にドライブに行ったり、外食に行く事もある。趣味である編み物を続け、完成した帽子やマフラーを、職員にプレゼントをする事を楽しみにしている入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と気の合う仲間同士で会話が盛り上がっている。別ユニットにも行き来が頻繁で、落ち着ける場所で過ごされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、入院先などへの面会を続けている。支援経過記録は契約終了後も記載している。亡くなられた方のご家族には、今でも時々、手紙を書くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動を詳しく記録に記載している。毎日、毎月のモニタリングを実施し、計画見直しの時期には、担当者がアセスメントし、その内容を全員で確認しあっている。	独自のアセスメント表に沿って、家族から担当職員が聞き取っている。半年毎にアセスメントを担当職員が実施しているが、他職員も記入している日々の記録からもその都度拾い上げ、追記や見直しも適宜行っている。意思疎通が困難な方は、今までの生活や性格を家族に聞き取ったり、日頃の行動や表情を観察し、一人一人の意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に詳しく聞き取りをしている。家族から直接記入していただく書類もある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤したらずぐ両ユニットの申し送り簿を各自確認するように徹底している。いつもと違うことは記録の特記事項に詳しく記載している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問歯科、リハビリなどかかわりのある職種からも意見をもらっている。その意見も含めて検討している。	ケアプランは計画作成担当者が作成している。半年に1回アセスメント、1年に1回ケアプランの見直しを行う。状況に応じて1ヶ月で見直しを行う等、現状に即したプランを作成し、月1回モニタリングを行っている。日々の記録においても、ケアプランを記載し毎日実施状況をチェックする事でモニタリングを実施、プランとケアの連動性もできている。リハビリが必要な方は、近隣医院でのリハビリをプランに盛り込んだり、プラン変更時は定例会議にて職員全体で情報を共有している。	

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は詳細に残している。申し送り以外に記録の読み返しをしたり、担当職員が、モニタリング時に記録を振り返ったりしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝、出勤者全員でミーティングしており、その中で、ある程度話し合いをしている。大きな課題などは、職員会議で取り上げたり、家族も含めて話し合ったりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりができる事、得意な事を発揮できる機会を多くもつことができるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はこちらから指定はしていない。現病などを聞き、こちらから勧めることもある。	近隣医院がかかりつけ医だった入居者は、職員が付き添い受診、入居前からのかかりつけ医を持続している入居者もいる。専門医受診は家族に支援を依頼している。半数以上の入居者は、月2回24時間対応の訪問診療を受けている。受診記録は日々の記録に記入したり、「春の山だより」に記載し家族に郵送している。重要な事柄は、直接医師から連絡をしてもらったり、家族に依頼し診察に付き添ってもらっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が、日頃の様子をよく把握しているため、なんとなく様子が違うということでも報告、相談をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院となった時に、退院の時期を家族や病院側に相談している。また、病院の担当者や家族と頻りに連絡をとるなどの連携をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針、看取り介護に関する指針を整備。各家族に説明し、本人とお話ができる今のうちに話し合ってくださいと伝えている。また、春の山でできること、できないことも伝えて、もしもの時のことを考えていただいている。	入居時に看取り・重度化した際の指針について説明、アセスメント時に本人や家族の希望を記録している。治療を希望し入院した入居者は、その後は施設に戻る事も話し合ったが、療養型病院への転院を選択され、希望に応じ支援を行っている。看取りの加算もっており、計画書を作成し支援経過も記録している。訪問診療は24時間対応可能で、施設内に家族の宿泊に対応できるゲストルームも準備している。自室にて傍らに付き添い、看取られた家族もいた。	

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署で応急手当普及員資格取得講習会に参加しており、数年経つと再講習を受け、忘れかけていることを再学習している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。最近では、地震や地震後の火災、パート職員が多い日勤帯を想定した訓練を実施。前回の意見を振り返りながら、ひとつでも改善や工夫ができるようにと、じっくり計画している。	年2回毎回消防からの参加もあり実施している。地域からの協力も必要と感じ、口頭やお知らせ等で近隣の方にも参加を依頼、民生委員・自営業や消防団の方等の参加がある。誘導時に声をかけるタイミングや、トイレや自室の入口に避難済みがかかる札をしておく等、参加者からのアドバイスを取り入れた。水・長期保存可能なレトルト食品・乾麺を備蓄している。市の防災訓練に見学に行ったが、今後は実際に参加する事を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときには、ノックをしてひと呼吸おくようにしている。また、不在の居室には入らないか、了解を得て入るようにしている。排泄や入浴介助は、周囲から見えないように、ドアを閉めている。	個人情報や写真の掲載等については、家族からの同意書をとっている。方言等もその方に合わせて使用し、親しみやすい雰囲気を感じ、言葉遣いが気になる時は、管理者や職員同士で注意をしている。表情や仕草から気持ちを察するようにしたり、その方に合った質問の仕方を、職員同士で共有したりアドバイスをもらう等、気持ちを引き出せるよう工夫をしている。	今までに接遇マナーの研修に参加がないとの事で、今後は接遇マナーの研修に参加したり、内部研修のテーマに接遇について取り入れてみたらどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの理解力や判断力にあわせて質問の仕方を変えたり、表情やしぐさなどから気持ちを察することができるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望に沿うことは難しいが、ひとりひとりのペースにあわせて、起床、入床時間を調整したり、散歩やドライブなど求めておられることを取り入れたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったり、毎日鏡を見て化粧してもらったりしている。訪問美容では、希望者はヘアカラーもしてもらっている。敬老会や正月などは事前に洋服を選んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下ごしらえや、皿へのつぎわけ、食器洗いなどできることをしていただいている。漬物や梅干し作りは、職員が教わりながら作っている。	行事担当やメニュー担当の職員がおり、利用者の好みを聞き取ったり、食事の様子を見ながら臨機応変にメニューを決定している。正月や敬老会は特別なメニューにしたり、誕生会もロールケーキをデコレーションする等、入居者の楽しみとなっている。年1回程度数名ずつに分けて外食に行ったり、嚙下しづらい方はデザートのお店にする等、その方に合わせた支援を行っている。	

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食は提供していない。できるだけ塩分控えめにしているが、おいしいと言って食べてもらいたいと思っている。糖尿病などで量の調整が必要だと主治医から指示があれば調整はしている。水分摂取量は個別にチェックしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。ひとりひとりの口腔ケアの様子を観察して、必要な介助を実施している。治療以外に、口腔ケアを目的に訪問歯科を利用している方もおられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座っての排泄を基本と考えている。誘導が必要な方は、排尿量や睡眠状況などに合わせてそれぞれに工夫をしている。尿取りパットをうまく使用できない方のために、簡単装着パットを使用するなど、オムツ類の検討もしている。	日々の記録の中に排泄表があり、パッドの汚染状況やウオッシュレット使用等細かく記録している。簡単装着パッドを使用した事で、パッドがずれにくくなり、ズボンの上げ下ろしを4・5名の方が自分でできるようになった。ベッド上で交換する方は、ボトルを使用し洗浄する事で、皮膚状態の改善を図る事ができた。支援方法は日頃から検討し、短期目標等の見直し等も適宜行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナジュースの提供や、廊下歩行運動などを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3日を基本としている。それ以外に人工肛門の方はパウチの使用量にあわせたり、発汗や排便にあわせたりしている。	ユニットバスの造りで、ユニット毎の浴室が脱衣所やリネン室を挟み隣り合っており、手すりの位置は左右対称である。概ね朝8時30分から16時程度まで1日7・8名の入浴を実施し、入居者の状況に応じて、どちらの浴室も利用可能である。個浴でありお湯を入れ替える事もある。個人の好きなシャンプーを使用している方もいる。皮膚状態を観察し、受診の必要性の有無等、状態の判断を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を大切にするため、昼間の活動量を増やしたり、夕食後はゆったりとすぐせるようにしている。朝は、カーテンをあけてリズムを乱さないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、薬情報を確認している。薬局の薬剤師さんとも日頃から相談しやすい関係が築けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	孫や曾孫との手紙のやり取りを提案し、写真や絵入りのハガキのやり取りをしたり、漬物作ってふるまったり、少しでもこれまでの生活を取り入れるように工夫している。		

H31.1自己・外部評価表(GH春の山)2.12

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日外へ散歩や買い物に出かける方、週1でドライブに出かける方、家族対応で、月1自宅へ帰られる方、とひとりひとり希望や気持ち落ち着ける方法を考えて支援している。	年間5回程度、桜・ふじ・あじさい・コスモス・紅葉等全員で外出している。本部のリフト車を利用し、車椅子の方の外出支援も行う。地元の敬老会に、家族が支援し2名の方が参加している。ラーメン屋に連れて行ったりドライブする等、個別で対応する事もある。中庭のウッドデッキにテーブルを持ち出し、おやつを食べたり体操を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金や印鑑等重要な物は所持しないとしている。しかし、お小遣い程度の少額を持っておられる方もいる。金庫で預かっているひとりひとりのお小遣いで買い物をするときに、職員が見守りながら自分で支払いをしてもらうこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に買い物の依頼で電話をかける方がおひとり。家族が遠方に住んでおられるため、月1程度で電話をかけてこられたり、孫、曾孫とのハガキのやり取りをされている方がおられる。安心できるような内容をノートに記載し、面会時持参される家族もおられる。家族からの年賀状は大変喜ばれる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によっては西日が強くはいりこむことがあるため、日よけを使用したり、職員が季節の花を飾ったりしている。	ユニットは中庭を挟み左右対称の回遊式の造り、居間も隣り合っており、近い距離に位置している。廊下の幅もかなり広く、休憩できるように備え付けのベンチもある。居間の扉も大きく開放感があり明るい。小上がりの畳スペースもあり、自宅のようにくつろげる雰囲気がある。多目的トイレが2つ、洋式トイレつと全体で9か所もあり、利用しやすい環境である。ゆっくり落ち着いて過ごしてもらう為に、職員はバタバタと走り回らないようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方の居室でおしゃべりをしたり、夫婦でどちらかの居室に行き一緒に過ごしたりと自由な時間がある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファ、仏壇やお位牌、ひとそれぞれに使い慣れた家具などを持ち込まれている。	使い慣れた物は何でも持ち込んでいいと、入所時に家族に説明しているが、新しく買おうとする家族もいる為、使い慣れた物を使用する事が、安心につながるという理由を含めて話をしている。趣味の盆栽を持ち込んだり、家族が作った手芸品や家族の写真等が飾ってある。窓も大きく明るい雰囲気、掃除も行き届いており清潔感も感じられる。自室でテレビを見て過ごしたり、週1回程度家族が弁当を持参して、自室で一緒に食べている入居者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分がいつも使用するトイレや居室だとわかるように目印をつけている。 歩行器や車いすを使用される方は、どのように行動されるかを観察して、腰を曲げずに物がとれたり、すぐに取り出せるよう整理整頓したり、毎回同じ通路を通って行き来することで迷わないようにしたりと工夫している。		